

# 生き方部会だより

Vol. 58

2015. 11. 27

文責:古川亜希子  
(事務局長)

ちょっと早いのですが…

## 次年度へ向けて!

いや、かなり早い?!

2015年もあと1ヶ月ほどになりました。部会員の皆様には、4月からスタートした「新・生き方部会」の活動にご協力いただき、本当にありがとうございました。

次年度は、レポート交流をおこなうことをお伝えしてきましたが、その形式についてお知らせします。

提出していただくのは来年5月以降ですので「もう?」「こんなに早く?!」という声が聞こえてきそうですが、今から実践を進めてその経過をレポートにする方もいらっしゃるかと思われましたので、お知らせします。

第1分科会(ボランティア)と第2分科会(コミュニケーション)では形式が異なりますので、留意事項等をご覧になり作成を進めてください。不明な点がありましたら、事務局までお問い合わせくださいますようお願いいたします。

### 留意点

- ・提出は来年4月以降の予定。提出先、提出方法など詳細については新年度体制がスタートしてからホームページ、部会だより等でお知らせします。
- ・レポートはA4縦型で作成する(1枚以上)。
- ・学校単位での作成でも可。ただし、グループ交流をすることもあるので、全員で作成し、一人ひとりが内容を把握すること。
- ・個人情報の取り扱いについては細心の注意を払う(必要があり児童生徒の写真を載せる場合は、①解像度を落とす ②一人の写真は使用しない ③目隠しやモザイクを入れない)。

### レポート形式

## 第1分科会(ボランティア)

【学校名】 ○○市立○○小・中学校

【氏名】 ○○ ○○(連名でも可)

1、今回の体験(ディスクゴルフ)の振り返り

2、児童・生徒への還元

3、ディスクゴルフ以外に取り組んでみたいユニバーサルスポーツについてのレポート  
(画像などを使ってまとめてもかまいません。)

## 第2分科会（コミュニケーション）

○○市立○○小学校 ◆◆ ◆◆ △△ △△ □□ □□		} 学校単位の場合は } 分科会員の連名で
ねらい	(例) 教師が意図的に働きかけることで、子ども同士が関わりをもつことの心地よさ、楽しさを感じられるようにする。	
内容	コミュニケーション 人間関係 カウンセリング	} この3つの中から内容（テーマ）を選んで作成する（討議の柱をこの3つに絞ります）。今年講演していただいた論駁法には限定しません。
方法	・上記の内容で、どのように取り組んだか分かるように記入する。 ・具体的物を使用したり、書籍を参考にした場合は参考として記入する。	
変容	・実践の前後での児童生徒の変容を記述する。 ・複数回とりくんだ場合は、その経過がわかるように記述する ・個別の事例を書くときは、個人が特定されないように配慮する（家庭の様子や児童の情報など、変容を説明する上で必要な場合は口頭とするなど）。	
成果と課題	・成果と課題を分けて記述する。とりくんでみて、子どもたちの成果（課題）でも、教師側の成果（課題）でもよい。  <b>【成果】</b>  <b>【課題】</b>	

### レポート作成に関わって

1. 授業を行った場合は指導案でも可とする。
2. 事例検討ではなく、あくまでも実践を紹介するレポートとする。
3. 学校単位でも個人でのレポートでもよい。学校単位の場合は、全員がレポートの内容（とりくみの経過など）を把握して、グループ交流の際に学校のとりくみを紹介できるようにしておく（グループ交流では学校単位で一緒になるわけではありません）。
4. 児童生徒個人が特定されないように配慮する（イニシャルではなく、A、B、Cなど機械的に名前を付けるようにするなど）。判断に迷う場合は、各学校で検討したり、管理職に相談する。紙面に書くことはできないが伝えたい場合は、口頭で。レポート集として石狩管内部会員に配布、保管されることを念頭に作成する。